マルハニチロ

あなたが大学時代に価値観・立場の違う人と接する中で、最も苦労したことや悩んだことは何ですか？

それに対し、具体的にどのように対応し、克服しましたか？

私が大学時代に価値観・立場の違う人と接する中で、最も苦労したこと、悩んだことは人の怒りからくる言葉をどのように受け止めるかです。私はマクドナルドでアルバイトをしていた中で、カウンターをすることがありました。そこではミス等によるお客様からのお怒りの言葉、叱責等を受けることがありました。その中にはどうしても理解できない不条理な怒りというものがありました。私はそれがどうしても受け止めることができず、自分にこのアルバイトは向いていないのでは無いのかと考えストレスを溜め込んでいました。そこで私は叱責の中、自分の中にワンクッション置くということをしました。怒りの感情をそのまま受け止めるこのではなく、自分の頭の中でワンクッション置くことで、冷静に相手の感情の部分を排除し、相手の求めているものは何か、自分のどこが悪かったのかということを受け止めることができるようになりました。その結果、私はストレスを溜めるようなこともなく、叱責を自分の成長のもととして利用できるようにもなりました。

あなたが最も重要としている『会社選びの基準』を1つ教えて下さい。

また、その理由を教えてください。 200 文字以内

私が最も重要としている会社選びの基準は「ものづくりに関われる事、情熱を注ぎ続けられる事」です。私の夢は、人においしいと言ってもらえる、人を幸せにできる商品に関わる事です。幼い頃から、自分で作った料理で相手においしいと喜んでもらう事が好きで、そのために様々な努力をしてきました。仕事とは今後の人生の基礎になるものだと考え、いくつになっても情熱を注ぎ続けられる様な「好きなもの」に携わりたいと思いました。

志望動機

貴社のコーポレートブランドである「世界においしいしあわせ」をという言葉に魅力を感じました。私は初めて作った料理を母にまずいと言われたことがきっかけで、自分の作ったものを相手においしいと言ってもらいたいと思うようになりました。またマクドナルドでアルバイトをしている中で食品に携わる人の強い思いを知る機会がありました。私は自分もそのような熱い思いを持てるような商品に関わりたいと思うようになりました。私は趣味の食べ歩きで得た様々なアイディアを生かし、熱い思いを持って貴社の「おいしいしあわせ」を世界に届けることに貢献したいと考えています。

私が大学時代に最も成果をあげたものは「アルバイト先での業務改善」です。私がアルバイトをしていたマクドナルドの店舗では需給予測が完全ではなく、そこから出る無駄、規定の時間内に使いきれなくなった食材のゴミが店の経営を圧迫する一因となっていました。長年お世話になり、いろいろな迷惑をかけてばかりの自分を働かせ続けてくれた店に自分が何か貢献できることはないのか、そう考えた時に私はゴミの量を減らすこと、仕事でのミスをしないようにすることを考えました。そこで私はマネージャーの許可を取り需給予測の補足を自分の判断で行うことにしました。昼などの大量の注文が来て手一杯になってしまうような時でも、5分ごとの注文の傾向、その日に使えるクーポンの割引額や対象商品、前の週や前日の注文の傾向を参考にしました。また仕事のミスがそのまま無駄へと繋がってしまうため、仲間同士で注意を行うこと、伝達をしっかり行うこと、仕事の手順の再確認を行うように促し、ミスを減らす工夫を行い、仕事をしました。その結果、無駄を減らすことに成功し、金額にして1000円程度の無駄を削減することが出来ました。